

日衛連

JAPAN HYGIENE PRODUCTS
INDUSTRY ASSOCIATION
発行 / 社団法人 日本衛生材料工業連合会

紙おむつNews

No.51

2005.04

特集
Feature Articles

中国の老人介護施設と排泄ケア

加速度的に増加する中国の高齢者、紙おむつの普及はこれから

日衛連では3月15日から20日までの5日間、中国造紙協会の生活用紙委員会主催の『2005年 中国生活用紙展並びに会議』への参加および高齢者施設の現状を視察しました。

日本と競うように急速に高齢化が進む中国。公式に発表された2002年の全国平均では13億国民のうち65歳以上の人口割合は8.2%、すでに1億人を超えています。今回の視察では、中国発展の先頭を走る一方で、65歳以上の高齢者人口が13.4%と全国トップの上海市をはじめ、長江流域江南経済圏の南京市、揚州市の高齢者介護施設を訪問しました。



全国からの入場者でにぎわう展示会



総会で日本の大人用紙おむつ市場について講演する
井尻専務理事



● 高齢社会で世界をリードする中国

日本の65歳以上の高齢者人口は2003年で2,430万人となり、総人口に占める割合が20%に肉薄しています。一方、中国でも日本に劣らず高齢化が進んでおり、2003年の人口13億5,000万人のうち、60歳以上の高齢者数（中国では伝統的に60歳からを高齢者として扱う）は1.32億人で、総人口の10.3%に達しています。この数字は2040年になると一気に4.09億人まで膨れ上がり、総人口に占める高齢者の割合は26.5%に達すると予測されています。

大都市部では1979年から採られてきた「一人っ子政策」が影響し、全国平均を大きく上回るスピードで高齢化が進んでおり、北京や、中国の経済発展の主力・上海などの長江デルタ地域で、さらに深刻な様相を見せています。2005年3月28日の読売新聞は、上海市では少子高齢化が極端に進み、このままいけば2030年には2人に1人が65歳以上という「白髪都市」（中国紙の表現）になる恐れがあることが明らかになったと報じています。そのため「一人っ子政策」を撤回し、少子高齢化に歯止めをかけようという動きもできています。

中国では「養児防老」（子供を育て、老後の不安を防ぐ）、「三・四世代同堂」（3～4世代が同居する大家族のこと）が伝統的な家庭観で、子供より高齢者を大事にすることが一種の美德でしたが、急激な経済成長とともに生活スタイル



や家庭観の変化が大きく、大都市では女性就業の一般化などの影響もあって、「核家族」、「3人家族」が増えており、結果として、独居老人が増加しています。

上海市では、高齢化関連の法整備をはじめ、様々な高齢化対策に取り組んでいます。上海市「養老施設管理弁法」第4条には“養老施設（老人ホーム）の整備事業は政府の資金投入と社会参入（民間資金利用のこと）により行う”と明記されているように、「社会福祉施設整備及びサービスの社会化」が近年の重点的な取組みとなっています（参考資料：NTTデータ経済研究所）。実際、上海市高齢化委員会の調査によれば、このまま推移すれば、2010年には上海市の高齢者のうち50人に1人しか老人ホームに入所できない状況になると指摘しています。

● 発展続く長江デルタ地帯の高齢者施設を訪問

このように都会を中心に高齢化が進み、介護施設の整備が急務となっている中国。今回の視察では、発展が続く長江デルタ地帯の中でも、経済活動では圧倒的に他をリードする上海市や南京市、今後大きな発展が見込まれている揚州

市など、いわゆる長江流域の江南経済圏の中核都市を訪れ、高齢者のケアの現状、排泄ケアの現状と考え方を知らるために、計4箇所の高齢者介護施設を訪問しました。

工業化前夜の歴史ある町・揚州市

最初に訪れたのは南京市から200キロ離れた揚州市でした。揚州市は奈良・唐招提寺の開祖・鑑真和尚が来日する前にいた大明寺があること

で知られる歴史のある町で、ほんの数年前まではのんびりとした田園風景が広がる町でした。今でも街中は自動車よりも自転車が多く、上海、

南京などと比べるとのんびりとした雰囲気が残っています。南京市から揚州市までは車で約2時間半、高速道路の両側は豊かな土地を利用した野菜畑が続いています。しかし、揚州市に近づ

くと道路の周辺は、工業団地の大規模な開発が行なわれています。今まさに揚州市は農業の町から工業の町へ大変貌の真っ最中というところ

半世紀超の歴史を誇る一級総合福利院

1ヵ月の入居費用は6,500円

「揚州社会福利院」は、江蘇省直轄の福利院で、1949年の中華人民共和国の建国直後に創設した長い歴史を持っている一級総合福利院です。改革開放以降、

江蘇省の党政府は揚州社会福利院を重要視するようになり、広大な敷地には孤児院、医療施設、娯楽施設などが整備されています。敷地内の高齢者用施設としては老人ホーム「茱萸湾老年公寓」と、老人病院「医療康复大楼」があります。

この施設への入居方法は3つの形態があります。



家族の都合などで臨時に滞在するショートステイ

自分で生活ができる、または基本的な生活はできるが介助も必要な入居者

完全に介護が必要な入居者

入居費用は自立した生活がおくれる人で1ヵ月500元（1元13円換算で6,500円）ほどです。食事は施設で作り、食堂で皆一緒に摂るのが原則ですが、体の不自由な方は食事を部屋で食べることもできます。また、各部屋には台所もついていて、自分で作ることも出来ます。



老人ホーム「茱萸湾老年公寓」



老人病院「医療康复大楼」

排泄ケアの主役は布おむつ

揚州社会福利院全体でのベッド数は600、入居者は約400名とのこと、これをケアする職員は合計117名で、内50名は臨時職員とのことでした。

揚州市福利センターの林主任書記は「老人ホームには現在250名が入居しており、最高齢者は97歳です。入居者のうち70名がなんらの介護が必要な人たちで全体の28%に相当します。さらに、完全に寝たきりで排泄介助が必要な人は20名で、その人たちが使用しているおむつは、ほとんど

が布製で紙おむつを使っている人はごく一部の人は」と話してくれました。その理由として「いままで紙おむつを使った経験がない」ことを第一に挙げていましたが、もうひとつの理由である「価格が高く使いきれない」というのが本音のようでした。排泄ケアが必要な人は、介護人が時間を決めて巡回し、汚れていたらその都度、トイレに連れて行ったり、おむつを交換するという方法がとられていました。

機能回復のリハビリも

老人病院「公寓老年康复大楼」は脳梗塞や脳溢血などの病気で身体が麻痺した人が、回復後の機能訓練を行なう施設で、病院というよりもリハビリテーションセンターといったほうがより実態に近いようです。機能回復室に並ぶ機器はかなり古いものでしたが、医師は「決して新しいものが買えないのではない。お年寄りにはシンプルで使いやすいのでこれを続けて使っています」と話していました。



老人病院「公寓老年康复大楼」のリハビリ施設

● 揚州市の杭集鎮(町)営の老年公寓

このように都会を中心に高齢化が進み、介護施設の整備が急務となっている中国。今回の視察では、発展が続く長江デルタ地帯の中でも、経済活動では圧倒的に他をリードする上海市や南京市、今後大きな発展が見込まれている揚州

市など、いわゆる長江流域の江南経済圏の中核都市を訪れ、高齢者のケアの現状、排泄ケアの現状と考え方を知るために、計4箇所の高齢者介護施設を訪問しました。

市や鎮への功労者のための介護施設

揚州市で訪れたもうひとつの介護施設は、揚州市郊外の杭集鎮(日本式に言えば杭集町)が建設運営している杭集鎮老年公寓です。ベッド数は64と比較的小規模な老人ホームでした。現在の入居者は全部で52名、そのうち32名が、元党の幹部、役人、教員、国营工場の労働幹部など、長年にわたって揚州市や杭集鎮のために貢献した人で、入居費用は公費で支払い、個人負担はありません。残りの20名は年金や家族の支援で自費入居しています。

入居者の平均年齢は78歳、最も若い人は66歳で最高齢者は100歳の女性でした。これを院長以下10名のスタッフがケアしています。国や省よりも行政レベルが下位の鎮政府の施設とはいえ、スタッフは国や省に匹敵するほどレベルが高く、全員が高卒以上の学歴を持ち、35歳以上という経験豊富なスタッフがそろっていました。

潘院長は「ここでの生活費は1人1カ月で約400元(約5,200円)ほどです」という。食事のメニューは、朝食が「おかゆ」、昼食は料理2品とスープ、



熱烈歓迎で迎えてくれた杭集鎮老年公寓



杭集鎮老年公寓・潘所長(上右)とのミーティング

夕食は料理1品とスープと充実していました。

いま、杭集鎮老年公寓では、この敬老園を国の施設並みにレベルアップすることを目指しています。「そのためには64ベット数を200前後に増床し、図書館や娯楽室の整備、スタッフ数も入居者5名につき1名が必要で、200床なら40名ほどが必要になります。また、ハード面だけでなく、精神的な悩みの解決、娯楽など楽しく生活できるようなソフト面での充実も不可欠です」と潘院長は今後の抱負を話してくれました。



居室でくつろぐ高齢者の皆さん

● 市営の大規模な介護施設・南京市老人公寓

病院、寝たきり専門棟を持つ大規模施設

南京市は江南経済圏の中核都市のひとつで、2004年末の人口は580万人、そのうち60歳以上の高齢者は約80万人で、市人口の13.9%を占めています。中国では老人向けの施設は国の民生部によって許可されていますが、南京市には177カ所の施設があります。合計のベッド数は9,845床、現在の入居者は7,474名です。

宋院長は「南京市はすでに高齢社会に入っていて、今後は老人ホームの建設が増えていくことと思います」と話してくれました。

今回訪問した施設は、8万平方メートルという広大な敷地の中に、介護施設、病院施設、寝たきりの人の介護施設などを含む娯楽区域、高齢者介護区域、医療区域、寝たきり区域、知的障害区域の5区域で構成されている総合施設です。1952年に設立され、すでに53年の歴史を持つ施設で、2002年にはISO9001を取得しています。

定員は600名で現在の入居者は590名。そのうち400名が85歳以上の高齢者で、その他は知的障害者などが入居しています。高齢者のうち200名は子供がいない入居者とのこと。また、約100名が介護を必要としていました。職員150名と介護担当100名、医者と介護師合わせて40数名とのことでした。

莫書記は、「民生局の指導で2年以内に1,000床まで増やす予定」と話してくれました。

入居費用は、1人1カ月平均800元（10,400円）で、

すでにご紹介した揚州市の施設に比べると1.6～2倍と高くなっています。入居者が病気になった場合には、敷地内の病院施設に移し治療を行うとのこと。寝たきりの人の排泄ケア用品は、現在は何回も洗えることから、主に布おむつを使



南京市老年公寓の莫書記(左)、宗院長(中)、江蘇省国際交流センター王部長(右)とのミーティング



南京市老年公寓の全景

っているが、今後は紙おむつを使う方向になるだろうとのことでした。

高齢者の入居者の約半数は、国や市、軍への貢献度の高い経歴を持つ人で、無料で入居しています。ちなみに、この施設でも最高齢者は非常に元気な106歳の男性でした。



居室でくつろぐ高齢者の皆さん

● 紙おむつだけを使っている私营介護施設・泰山敬老院

中国の経済発展を牽引している上海市は、全国で最も高齢者人口の割合が高く、60歳以上の高齢者人口はすでに20%を超えているといわれています。国の公式な統計では2002年の65歳以上の高齢者人口はすでに14.3%に達して、これも全国平均の8.2%を大きく上回って全国トップです。

上海市で訪問した高齢者介護施設「上海普陀区宜川泰山第二敬老院」は、今回訪問した中で唯一の私立の施設でした。

劉院長は「普陀区は人口60万人を抱える住宅地域です。高齢者用介護施設は区全体で20数箇所あるものの、60歳以上の高齢者が20%に達する状況では、該当年齢者の2%程度しか入居できていません。とても不足しています」と話されました。

日衛連では、SARS騒動があった2003年に普陀区を訪れ曹揚敬老院を訪問していますが、こちらは区の政府が運営する施設でした。

泰山第二敬老院の開設は2002年で、定員は80名、30名のスタッフでケアをしています。介護を必要としている老人と自立して生活できる老人の両方が入居していて、介護が必要な人は入居者の50%とのことでした。劉院長は「現在は満員で、さらに多くの入居希望の待機者がいます」と話しています。



この施設は、高齢者用に建てられたものではなく、前身は幼稚園でした。少子高齢化の中で幼稚園から高齢者用の介護施設へと衣替えをしました。劉院長は「私はもともと国営のガラス



幼稚園を改修した3階建ての敬老院

工場に勤務していました。工場でリストラされたときに『これからは高齢化が進み、その需要もあるだろう』と思い介護施設を設立しました」と開設までの経緯を話してくれました。開業資金を銀行から借り、閉鎖していた幼稚園を借り受けて改装し、2002年9月にスタートにこぎつけました。経営状態をうかがうと「この事業は、現在は利益が少ない事業です。しかし、ますます高齢者は増えますし、一人が受ける年金額もこれからはグンと増えます。これからの事業です」と話してくれました。

入居者は、近所に家族が住んでいる人が多く、

家族が食事の惣菜を作って届けに来ることも決して珍しくないとか。家族が共働きなどで忙しくてケアできないために入居している人が多く、離れていても近所にいる家族とは頻りに交流しているとのことでした。

この施設は1ヵ月の入居費用は、介護の必要がない人の場合は700円で、これには部屋代、食事代などすべてが含まれています。介護が必要な人の場合は、状態に応じて項目別に介護費用が加算されます。ほとんどの人が入居日を年金から出しており、年金のない人は子供が出しているケースがほとんどです。



日当たりのよい前庭で視察団の質問に答える劉院長(右)

開設以来、排泄ケアは紙おむつだけを使用

この施設でおむつが必要な人は15～16人ほどいましたが、この施設では設立以来、紙おむつだけを使用しているとのことでした。使用している紙おむつの種類は、テープタイプ、パンツタイプと、日本では見かけないシートタイプ(日本のペットシートに似ています)の3種類で、パッドタイプはありませんでした。テープタイプ、パンツタイプともに外見の質感は日本製とほとんど変わりなく見えました。価格はテープタイプ1枚2元(26円)、パンツタイプ1枚1.35元(17.5円)、シートタイプ1枚1元(13円)でした。これらは台

湾で製造され、上海のメーカーが包装して販売しています。

施設内で使用する紙おむつの購入費用は個人負担で、使用枚数は1日1枚～2枚が普通といいます。中国の老人の収入では「高いですよ紙おむつは」と劉院長。しかし、交換の手間などを考えて紙おむつが最適と判断して採用したといいます。高いという感覚のまま推移していくか、この値段を安いと感じるような経済的変化が起こるかが、紙おむつ普及のカギを握っているといえるでしょう。



施設で使っている紙おむつをチェックする視察団(左:テープタイプ、右:パンツタイプ)

紙おむつ・ライナー生産数量（日衛連調べ）

単位：トン、千枚

					平成14年		平成15年		平成16年	
					年 計	前年比%	年 計	前年比%	年 計	前年比%
紙 お む つ	大 人 用	(パンツタイプ)	テープ型	千枚	256,592	110	320,097	125	322,798	101
				トン	31,513	111	40,342	128	41,461	103
			パンツ型	千枚	296,815	110	358,717	121	428,920	120
				トン	23,783	108	30,403	128	36,052	119
			合計	千枚	553,407	110	678,815	123	751,718	111
		合計	トン	55,296	110	70,745	128	77,512	110	
		フラット型 パッド型 その他	千枚	387,469	106	393,263	101	381,023	97	
			トン	26,685	104	27,205	102	26,614	98	
			千枚	1,494,952	110	1,924,016	129	2,270,951	118	
			トン	60,457	114	79,346	131	88,530	112	
	合計		千枚	2,435,828	109	2,996,094	123	3,403,692	114	
	合計	トン	142,438	111	177,295	124	192,656	109		
	乳 幼 児 用	(パンツタイプ)	テープ型	千枚	3,266,903	99	3,609,528	110	3,373,206	93
				トン	113,647	96	122,110	107	110,162	90
			パンツ型	千枚	2,611,110	121	3,111,607	119	3,195,305	103
				トン	112,005	117	139,996	125	142,088	101
			合計	千枚	5,878,013	108	6,721,136	114	6,568,511	98
		合計	トン	225,652	105	262,106	116	252,250	96	
	合計	千枚	8,313,841	108	9,717,229	117	9,972,203	103		
	合計	トン	368,090	107	439,401	119	444,906	101		
ライナー	千枚	84,113	83	80,522	96	70,532	88			
	トン	133	83	127	96	111	88			

*枚数については、平成2年4月から発表 *大人用3分類別表示は、平成5年1月から発表 *大人用4分類表示、乳幼児用2分類表示は、平成10年1月から発表

寝たきりの人のおむつ代は、確定申告すると医療費控除が受けられます

昭和63年1月からおむつ（寝たきり用）は、医療費控除の対象になっています。控除を受けるためには、医師の発行する「おむつ使用証明書」 使用者の名前とおむつ代であると明記した「領収書」が必要です。詳しくは病院・医院、または税務署、市区町村役場にお問い合わせください。

紙おむつ・生理用品・衛生材料に関するご質問ご意見お問い合わせは下記へ

社団法人 日本衛生材料工業連合会

〒105-0012 東京都港区芝大門2-10-1
電話 03-6403-5351 FAX. 03-6403-5350